変額保険
グローバルミックス

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社
redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3

月次運用レポート

2015年2月

【利用する投資信託の委託会社】

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社

INVESTMENT MANAGERS
redefining / investment solutions

アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社は、マルチ・エクスパートによる資産運用業務をグローバルに展開するアクサ・インベストメント・マネージャーズの日本法人として、機関投資家の資金や投資信託の運用を行う資産運用会社です。1987年の日本進出以来、ファンダメンタルズ情報と最新の運用テクノロジーを結合することにより、一貫した投資哲学に基づく株式のアクティブ運用を行うとともに、債券、オルタナティブ投資商品といった幅広い投資家のニーズに応える高品質な運用商品を提供しています。

特別勘定の運用方針について

基本資産配分比率	運用方針	利用する投資信託	
		投資信託名	委託会社
株式　50%	日本国債をはじめとする債券及び日本・米国・欧州の株式に分散投資することにより、中長期での資産の安定的な成長をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。 基本資産配分は、株式50%程度、債券50%程度とします。 運用の決定にあたっては、収益性、安全性、流動性に配慮し、運用環境の動向に応じた資産配分を行います。 （特別勘定の運用は、アクサ生命保険株式会社　ALM＆特別勘定運用部が行います。）	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
		アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	
		アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	
		アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A） 〈適格機関投資家私募〉	
債券　50%		アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B） 〈適格機関投資家私募〉	

※　特別勘定の運用方針、利用する投資信託および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。

※　特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

- アクサ生命保険株式会社の「変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
- 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 商品内容の詳細については「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
- 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。

変額保険
特別勘定の月次運用レポート （2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2015年2月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、TOPIX（東証株価指数）が前月末比＋7．69%上昇の1，523．85ポイントで終了しました。
月前半は、米国や中国の景気指標悪化などにより下落する場面もありましたが、円安が進行したことなどにより上昇しました。月後半は、企業業績の改善やギリシャへの金融支援延長の合意などを受けて大きく上昇しました。
業種別（東証33業種）では、リターン・リバーサルの動きから「その他金融業」（前月末比＋19．25%）が最も上昇した一方、民事再生法の適用申請を受けスカイマークの株価が急落した「空運業」（同△4．90%）が最も下落しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は、月前半、原油先物の反発や良好な雇用統計などを背景に上昇基調で推移しました。月後半は、FRB（米連邦準備制度理事会）のイエレン議長による議会証言で、利上げの時期を慎重に見極めるとの認識が示されたことやギリシャへの金融支援延長が合意されたことなどから上昇基調で推移しました。NYダウは、前月末比＋5．64%上昇の18，132．70ドルで終了しました。
欧州株式市場は、月前半、ギリシャ債務問題への懸念などにより下落した後、ユーロ圏の2014年10-12月期の実質GDPの結果などが好感されて上昇しました。月後半は、ギリシャへの金融支援延長の合意などから上昇しました。市場別騰落率は、英FT100が前月末比＋2．92%上昇、仏CAC40が同＋7．54%上昇、独DAXが同＋6．61%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、月前半、10年国債入札が不調だったことや、米国の良好な雇用統計の発表などから、金利は上昇基調（価格は下落）で推移しました。月後半は、米国の議会証言で明確な利上げ時期が示唆されなかったことや良好な需給環境などが好感されたことなどから低下（価格は上昇）しました。新発10年国債利回りは、月末は0．330%となりました（前月末は0．275%）。
日銀はマネタリーベースが年間約80兆円に相当するペースで増加するよう金融市場調節を行いました。無担保コール（翌日物）は0．1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

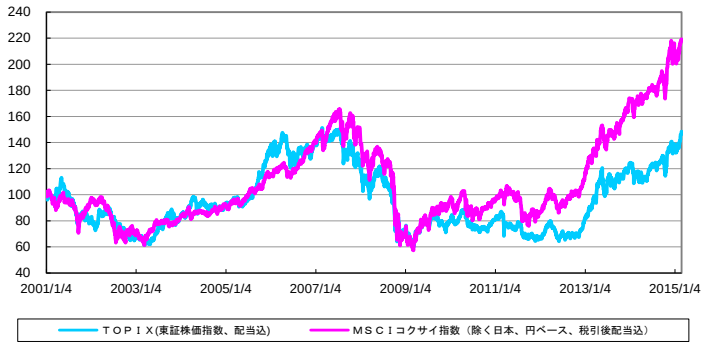
米国債券市場は、月前半、リスク回避姿勢が弱まり、株式市況が上昇したことなどを背景に金利は上昇(価格は下落)しました。月後半は、米国の利上げを巡る思惑の違いなどから、小幅な揉み合いで推移しました。米10年国債利回りは、月末は1．993%となりました（前月末は1．641%）。
欧州債券市場は、月前半は、ギリシャが債務問題に関して、EU（欧州連合）などと交渉する姿勢を示したことなどにより上昇（価格は下落）する場面もありましたが、横ばいで推移しました。月後半は、米国国債の影響を受け小幅な上昇となった後、ギリシャへの金融支援延長が合意されたことなどから低下（価格は上昇）しました。独10年国債利回りは、月末は0．328%となりました（前月末は0．302%）。
FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標を据え置き、年0．0～0．25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年0．05%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル／円相場は、月前半、ギリシャ債務問題により小幅な揉み合いとなった後、米国の良好な雇用統計や長期金利の上昇などにより円安が進行しました。月後半は、米国の10年国債利回りの動きや、米国の利上げを巡る思惑の違いなどから揉み合う展開となりました。円は対ドルで前月末比1円02銭円安ドル高の1ドル＝119円27銭となりました（前月末比＋0．86%上昇）。
ユーロ／円相場は、月前半、ギリシャ債務問題を巡るEUとの交渉状況などにより揉み合いながらも円安が進行しました。月後半は、ギリシャへの金融支援延長が合意されたことや、3月からのECBによる量的金融緩和の開始が意識されたことなどにより、揉み合う展開となりました。円は対ユーロで前月末比23銭円高ユーロ安の1ユーロ＝133円65銭となりました（前月末比△0．17%下落）。

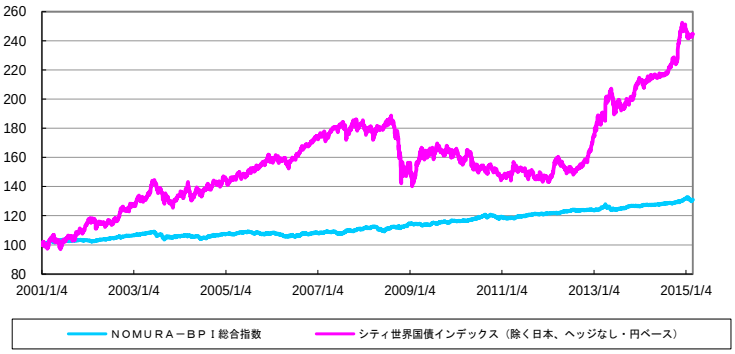
日本と外国の株式市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

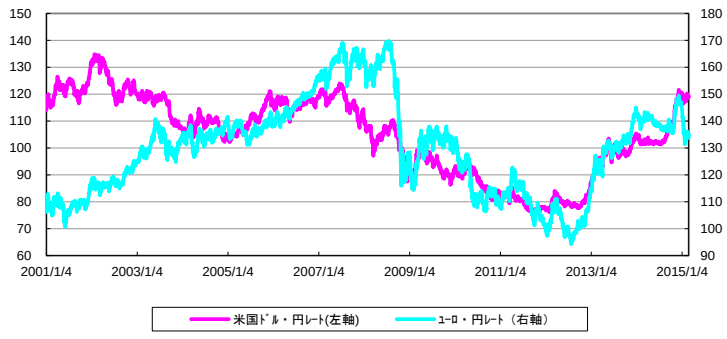


日本と外国の債券市場の推移

＊下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所：株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

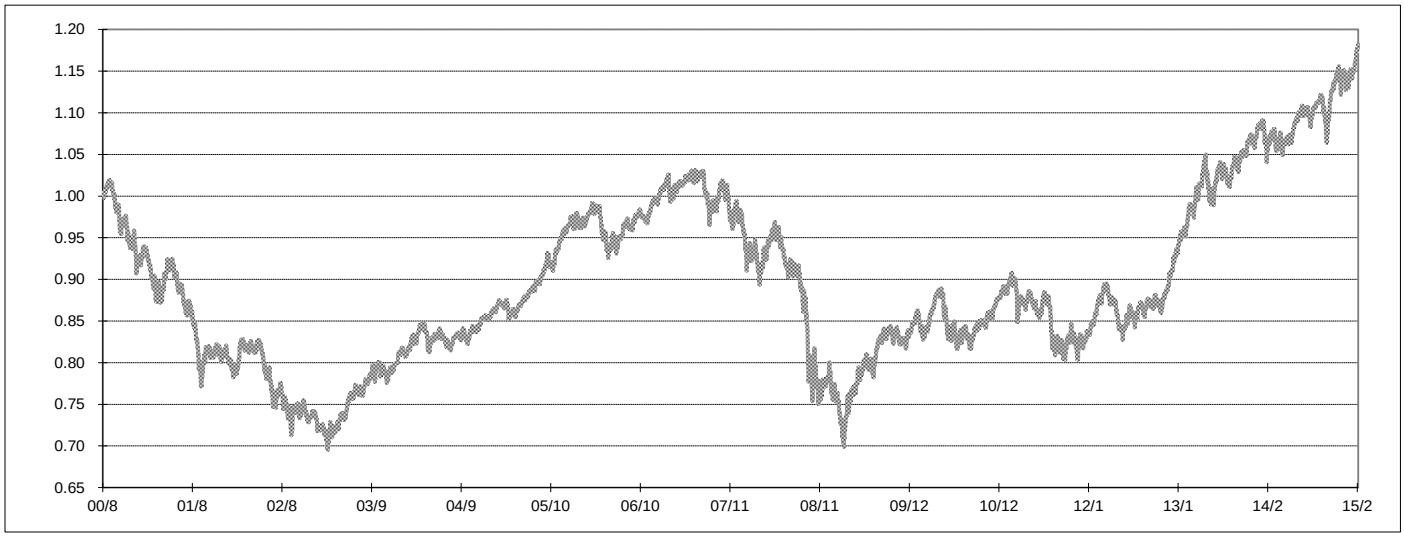
変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2015年2月 末日現在]

■特別勘定のINDEXの推移

※ 特別勘定のINDEXは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



	2015年2月末	2015年1月末	2014年12月末	2014年11月末	2014年10月末	2014年9月末
INDEX	1.182	1.147	1.148	1.146	1.115	1.115
	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
騰落率（%）	3.02	3.09	6.87	10.20	34.42	18.18

※ 特別勘定のINDEXは、2000年8月1日を1．00として計算しています。

※ 騰落率は、該当月の月末のINDEXに対する当月末のINDEXの変動率を表しています。

■特別勘定資産の内訳

項目		金額（千円）	比率（%）
現預金・その他		1,975,067	4.4
その他有価証券		43,074,932	95.6
	アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）	4,763,331	10.6
	アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）	7,121,299	15.8
	アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）	6,722,526	14.9
	アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）	4,767,228	10.6
	アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）	19,700,545	43.7
合計		45,049,999	100.0

※ 各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

※ 金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

■特別勘定の運用コメントおよび今後の運用方針

当月のINDEX騰落率等は上記をご参照願います。
資産配分に関しましては、基本資産配分を概ね維持しております。（株式部分は、日本株式25%、欧米株式25%の資産配分といたしました。）
今後も引き続き、運用方針に沿って運用を行う予定ですが、将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更されることがあります。

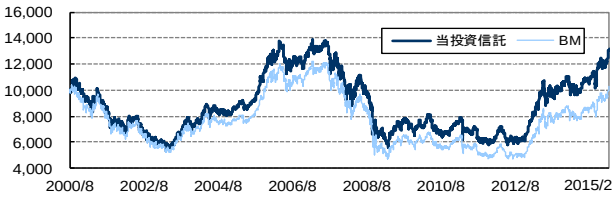
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2015年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	8.04%	8.56%	21.49%	28.64%	90.27%	31.86%
BM	7.69%	8.05%	19.24%	25.77%	82.29%	2.78%
差	0.35%	0.51%	2.25%	2.88%	7.99%	29.08%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年8月3日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	13.15%
2	輸送用機器	11.95%
3	銀行業	9.40%
4	化学	7.98%
5	情報・通信業	7.34%
6	小売業	6.65%
7	医薬品	5.02%
8	卸売業	4.78%
9	その他業種	32.76%
10	現金等	0.98%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	99.02%
2	現金等	0.98%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	5.02%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.93%
3	日本電信電話	情報・通信業	2.10%
4	KDDI	情報・通信業	2.09%
5	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.07%
6	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.65%
7	ソフトバンク	情報・通信業	1.54%
8	本田技研工業	輸送用機器	1.43%
9	アステラス製薬	医薬品	1.34%
10	キヤノン	電気機器	1.31%
合計			22.47%
組入銘柄数			263銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋8．04%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比＋7．69%となりました。当月の日本株式市場では、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた移動体通信や事務機器が下落したことはマイナスに寄与しました。一方個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたKDDI（9433）や住友精化（4008）が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していた三菱UFJフィナンシャル・グループ（8306）やフォスター電機（6794）が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、ポートフォリオをベンチマークからの乖離が一定の範囲内に収まるよう構築することで、中・長期的な観点から安定的にベンチマークを上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

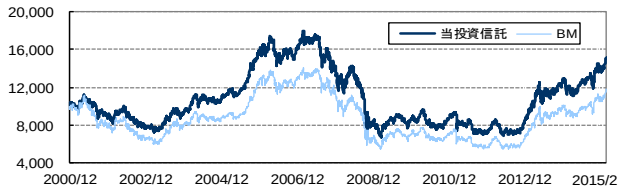
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2015年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として日本の株式を対象に投資を行い、信託財産の中長期的な成長を図ることをめざします。定量スクリーニングによって割安度が高く、かつ成長性の高い銘柄を中心に積極的に投資します。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本バリュー株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	7.76%	7.77%	19.15%	27.54%	85.21%	52.48%
BM	7.69%	8.05%	19.24%	25.77%	82.29%	18.19%
差	0.07%	▲0.28%	▲0.09%	1.78%	2.92%	34.29%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）[*1]です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　業種別構成比率

	業種	マザーファンド
1	電気機器	13.37%
2	輸送用機器	12.30%
3	化学	9.49%
4	銀行業	8.37%
5	情報・通信業	8.30%
6	小売業	6.58%
7	医薬品	5.65%
8	陸運業	4.62%
9	その他業種	30.14%
10	現金等	1.18%
合計		100.00%

○　市場別構成比率

	市場	マザーファンド
1	東京証券取引所第一部	96.18%
2	その他の市場	1.75%
3	ジャスダック証券取引所	0.45%
4	東京証券取引所第二部	0.43%
5	名古屋証券取引所第一部	0.01%
6	現金等	1.18%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	業種	マザーファンド
1	トヨタ自動車	輸送用機器	5.03%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.81%
3	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.62%
4	日本電信電話	情報・通信業	2.32%
5	KDDI	情報・通信業	2.26%
6	アステラス製薬	医薬品	2.08%
7	キヤノン	電気機器	2.02%
8	日産自動車	輸送用機器	1.89%
9	東海旅客鉄道	陸運業	1.85%
10	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	1.85%
合計			25.74%
組入銘柄数			138銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋7．76%となりました。一方、ベンチマークである東証株価指数（TOPIX）の騰落率は、前月末比＋7．69%となりました。当月の日本株式市場では、純資産利回りの高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた事務機器や移動体通信が下落したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していたセイコーエプソン（6724）や東ソー（4042）が下落したことはマイナスに寄与しましたが、多めに保有していたオリックス（8591）や三菱UFJフィナンシャル・グループ（8306）が上昇したことはプラスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、わが国の企業の株式から、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別し、積極的に投資することで、ベンチマークを中・長期的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、独自に開発したシステマティックなモデル（定量分析）を幅広い銘柄に適用し、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目して、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

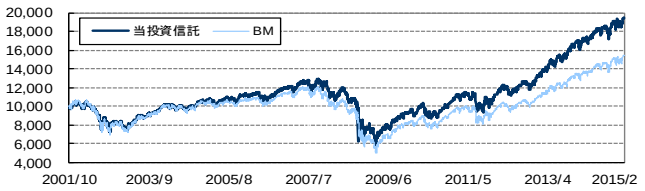
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2015年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.24%	1.87%	5.43%	14.11%	64.69%	94.83%
BM	4.40%	1.71%	5.52%	13.50%	52.55%	54.13%
差	▲0.16%	0.15%	▲0.09%	0.61%	12.14%	40.70%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、S&P500種株価指数[*2]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・米国株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として米国の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・米国株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.39%
2	ソフトウェア・サービス	10.79%
3	テクノロジー・ハードウェア	7.36%
4	エネルギー	6.93%
5	食品・飲料・タバコ	5.75%
6	保険	5.42%
7	銀行	5.24%
8	資本財	4.97%
9	その他業種	41.32%
10	現金等	0.83%
	合計	100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	APPLE INC	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア	5.06%
2	JOHNSON & JOHNSON	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.29%
3	JPMORGAN CHASE & CO	アメリカ	銀行	2.19%
4	PFIZER INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.94%
5	MICROSOFT CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.65%
6	EXXON MOBIL CORPORATION	アメリカ	エネルギー	1.57%
7	GILEAD SCIENCES INC	アメリカ	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.41%
8	INTL BUSINESS MACHINES CORP	アメリカ	ソフトウェア・サービス	1.34%
9	PEPSICO INC	アメリカ	食品・飲料・タバコ	1.33%
10	INTEL CORP	アメリカ	半導体・半導体製造装置	1.29%
	合計			20.07%
	組入銘柄数			226銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋4．24%となりました。一方、ベンチマークであるS＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は、前月末比＋4．40%となりました。当月の米国株式市場は、株価を1株あたりの利益と比較した時に割安であった銘柄が相対的に下落する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはマイナスへ寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた電力や空運が下落したことはマイナスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた素材のFreeport－Mcmoran Incや半導体・半導体製造装置のFirst Solar Incが上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた公益事業のPacific Gas & Electric Coや運輸のDelta Air Lines Incが下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、米国企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

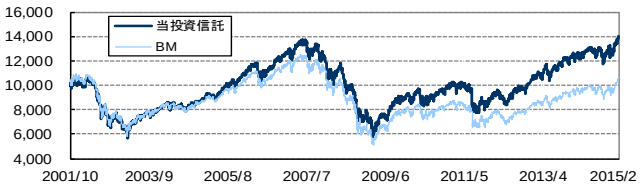
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2015年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・欧州株式ファンド（A）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、主として欧州地域の企業が発行する株式を対象に投資を行い、個別銘柄の市場価格が、適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」（バリュー株）を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的にみて、安定的に上回る運用をめざします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・欧州株式マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	4.73%	7.26%	9.94%	11.38%	49.98%	40.55%
BM	5.10%	7.40%	9.29%	9.52%	35.82%	6.03%
差	▲0.37%	▲0.14%	0.65%	1.86%	14.17%	34.52%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2001年10月16日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
　また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCI欧州株価指数[*3]
　（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの／円ベース）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○　国別構成比率

	国名	マザーファンド
1	イギリス	29.48%
2	フランス	15.20%
3	ドイツ	12.99%
4	スイス	12.33%
5	オランダ	6.46%
6	スペイン	6.13%
7	スウェーデン	4.44%
8	イタリア	2.78%
9	その他の国	9.56%
10	現金等	0.62%
合計		100.00%

○　セクター別構成比率

	セクター	マザーファンド
1	医薬品・バイオテクノ・ライフ	11.69%
2	銀行	11.40%
3	食品・飲料・タバコ	11.08%
4	資本財	8.37%
5	保険	8.26%
6	素材	7.10%
7	電気通信サービス	5.56%
8	エネルギー	5.51%
9	その他業種	30.41%
10	現金等	0.62%
合計		100.00%

○　組入上位10銘柄

	銘柄	国名	セクター	マザーファンド
1	HSBC HOLDINGS PLC	イギリス	銀行	2.64%
2	GLAXOSMITHKLINE PLC	イギリス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.34%
3	BRITISH AMERICAN TOBACCO PLC	イギリス	食品・飲料・タバコ	2.23%
4	NESTLE SA-REGISTERED	スイス	食品・飲料・タバコ	2.23%
5	SANOFI	フランス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.22%
6	NOVARTIS AG-REG SHS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	2.07%
7	BANCO SANTANDER SA	スペイン	銀行	2.01%
8	SIEMENS AG	ドイツ	資本財	1.79%
9	ROCHE HOLDING AG-GENUSSS	スイス	医薬品・バイオテクノ・ライフ	1.68%
10	BAYERISCHE MOTOREN WERKE AG	ドイツ	自動車・自動車部品	1.37%
合計				20.58%
組入銘柄数				207銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比＋4．73%となりました。一方、ベンチマークであるMSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）の騰落率は前月末比＋5．10%となりました。当月の欧州株式市場は、市場連動性が高い銘柄が相対的に上昇する基調にあり、当投資信託ではこれらの銘柄をベンチマーク対比で多めに保有していたことはプラスに寄与しました。委託会社独自の業種別では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた保険が下落したことや少なめに保有していた石油メジャーが上昇したことはマイナスに寄与しました。国別では下落したスイスの銘柄を少なめに保有していたことはプラスに寄与しました。一方、個別銘柄では、ベンチマーク対比で、多めに保有していた素材のRexam（イギリス）が上昇したことはプラスに寄与しましたが、多めに保有していた銀行のHSBC　Holdings　Plc（イギリス）が下落したことはマイナスに寄与しました。

当投資信託の運用方針は、欧州企業の株式の中で、個別銘柄の市場価格が適正と考えられる価格に比べて過小に評価されていると判断される「割安株」を選別してポートフォリオを構築することで、ベンチマークを中長期的に安定的に上回る運用を目指します。割安株の選別は、銘柄選択用クオンツモデル（定量分析）等により、個別企業の財務諸表および企業収益の変化等の要因からみた割安度に着目し、個別企業を詳細に分析・評価するボトムアップ・アプローチにより行なうことを基本とします。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。
・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

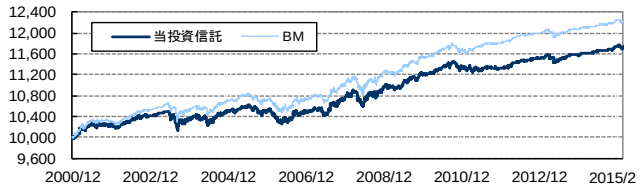
【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険
特別勘定の月次運用レポート（2015年2月）

・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉の運用状況　［ 2015年2月 末日現在 ］

■当投資信託の基準価額の推移



※　投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を10，000として指数化しています。

■利用する投資信託について

【投資信託名】　アクサ ローゼンバーグ・日本債券ファンド（B）〈適格機関投資家私募〉
【委託会社】　アクサ・インベストメント・マネージャーズ株式会社
【運用方針】
マザーファンド受益証券への投資を通じて、実質的に、原則としてわが国の公社債に投資を行い、ベンチマークを中長期的にみて、上回る運用をめざします。外貨建資産に投資した場合は、原則として為替ヘッジを行います。

※　当投資信託は、主としてアクサ ローゼンバーグ・日本債券マザー・ファンド受益証券〈適格機関投資家私募〉に投資します。

■当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
投資信託	▲0.14%	0.20%	0.57%	0.96%	3.30%	17.36%
BM	▲0.05%	0.16%	0.55%	0.96%	3.13%	22.31%
差	▲0.09%	0.04%	0.01%	0.00%	0.18%	▲4.95%

※ 設定来の騰落率は、投資信託の設定日（2000年12月21日）の前日を起点として計算しています。
※ 投資信託の騰落率は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。
また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。
※「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、日興債券パフォーマンス・インデックス（総合[*4]、中期3年以上7年未満）です。

■マザーファンド受益証券の詳細情報

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

○ 資産構成

		修正デュレーション	ﾏｻﾞｰファンド
公社債		4.38 年	99.59%
	国債	5.66 年	62.02%
	地方債	0.00 年	0.00%
	特殊債・財投債	1.32 年	2.71%
	金融債	0.00 年	0.00%
	社債等	2.35 年	34.86%
	その他	0.00 年	0.00%
短期資産等*		0.00 年	0.41%
合計		4.36 年	100.00%

＊　債券先物を含みます。

※「修正デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

○ 公社債の格付別構成比率

格付区分	ﾏｻﾞｰファンド
AAA	0.00%
AA	74.04%
A	21.48%
BBB	4.48%
BB以下（無格付含）	0.00%
合計	100.00%

格付基準：
※ 海外格付機関の格付を優先します。
※ 海外格付機関の格付取得の無い発行体は、国内格付機関の格付けを採用します。

○ 組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付 ムーディーズ	格付 S&P	ﾏｻﾞｰファンド
1	第303回利付国債（10年）	日本	1.400%	2019年9月20日	A1	AA-	7.97%
2	第326回利付国債（10年）	日本	0.700%	2022年12月20日	A1	AA-	6.08%
3	第335回利付国債（10年）	日本	0.500%	2024年9月20日	A1	AA-	5.68%
4	第305回利付国債（10年）	日本	1.300%	2019年12月20日	A1	AA-	5.12%
5	第322回利付国債（10年）	日本	0.900%	2022年3月20日	A1	AA-	4.64%
6	第330回利付国債（10年）	日本	0.800%	2023年9月20日	A1	AA-	4.51%
7	第5回新韓銀行円貨社債（2014）	韓国	0.390%	2017年11月13日	A1	A	3.07%
8	第315回利付国債（10年）	日本	1.200%	2021年6月20日	A1	AA-	2.82%
9	第295回利付国債（10年）	日本	1.500%	2018年6月20日	A1	AA-	2.77%
10	第298回利付国債（10年）	日本	1.300%	2018年12月20日	A1	AA-	2.76%
合計							45.42%
組入銘柄数							52銘柄

※　上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

○ ポートフォリオの状況

	ﾏｻﾞｰファンド
平均複利利回り	0.19%
平均クーポン	1.07%
平均残存期間	4.48

※「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

■当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比▲0．14%、一方、ベンチマークである日興債券パフォーマンス・インデックス（総合、中期3年以上7年未満）は前月末比▲0．05%となりました。当月の当投資信託は前月からの戦略を維持しましたが、ベンチマークを下回る結果となりました。当月は原油価格が落ち着きを取り戻したことによるインフレ期待の反発や市場予想を上回る米雇用統計を受け、日本国債利回りは上昇しました。当月末の日本10年国債の利回りは前月末比0．055%上昇の0．330%となりました。
委託会社は、日銀の量的金融緩和策を背景にして、日本国債利回りは低位で推移すると予想しています。今後の当投資信託の方針として、デュレーション戦略ではしばらくベンチマーク並みの水準とし、種別戦略ではベンチマーク対比での少なめの配分になっている国債の組入れをさらに減らして、多めに配分している非国債の組入れをさらに増やす方針です。

※　将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。　・4ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先：　カスタマーサービスセンター
Tel 0120-568-093
アクサ生命ホームページ http://www.axa.co.jp/

変額保険

用語説明

＊1「東証株価指数（TOPIX）」とは、東京証券取引所第一部に上場する国内株全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。
東証株価指数（TOPIX）は、株式会社東京証券取引所（以下㈱東京証券取引所）の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。
㈱東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

＊2「S＆P500種株価指数」とは、スタンダード＆プアーズ社が公表している株価指数で、米国の主要500社によって構成されています。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利は
スタンダード＆プアーズ社に帰属しています。S＆P500種株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、S＆P500種株価指数（米ドルベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊3「MSCI欧州株価指数」とは、MSCI Inc. の算出する欧州株式市場の動きを示す指数です。MSCI欧州株価指数に関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。
また、MSCI Inc. は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。MSCI欧州株価指数（為替ヘッジコスト相当分を調整して得たもの）は、MSCI欧州株価指数（ユーロベース）に対し、委託会社が為替ヘッジコスト相当分を調整して、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて円ベースに換算したものです。

＊4「日興債券パフォーマンス・インデックス（総合）」とは、日興フィナンシャル・インテリジェンス株式会社が発表している、日本の債券市場の動きを表す指数です。国債、地方債、政府保証債、財投機関債、
金融債、事業債などの円建て公募利付債で構成されています。対象となる債券は残存年数1年以上、残存額面10億円以上で、格付機関からBBB格相当以上の格付を取得している発行体に限られます。
同指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はSMBC日興証券株式会社に帰属します。また、SMBC日興証券株式会社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

注意事項

〇変額保険の仕組み
変額保険とは、保険金額が「特別勘定」の資産運用実績にもとづいて変動する生命保険です。
*特別勘定とは、変額保険にかかわる資産の管理・運用を行うもので、他の保険種類にかかわる資産とは区分し、独立して管理・運用を行います。

〇変額保険のリスクについて
①市場リスク
特別勘定の資産運用には、株価の低下や為替の変動等による投資リスクがあります。場合によっては、お受け取りになる保険金額（有期型の場合、満期保険金を含む）や解約払いもどし金額の合計額が、払い込まれた保険料の合計額を下回る可能性があります。なお運用実績にかかわらず、死亡・高度障害時保険金は保証されています。

②信用リスク
万一、引受生命保険会社が経営破綻に陥った場合、ご契約時にお約束した給付金等の金額が削減されることがあります。その場合、生命保険契約者保護機構により、保険契約者保護の措置が図られることがありますが、この場合にも、ご契約時の給付金等の金額が削減されることがあります。

契約月別の運用実績の例

（一時払、男性40歳加入、基本保険金額1,000万円の場合）

契約日	終身型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成12年　8月　1日	1,000	−473	18.18	1.15
平成12年　9月　1日	1,000	−481	16.43	1.05
平成12年　10月　1日	1,000	−458	19.76	1.26
平成12年　11月　1日	1,000	−438	22.47	1.42
平成12年　12月　1日	1,000	−416	25.59	1.61
平成13年　1月　1日	1,000	−396	28.37	1.78
平成13年　2月　1日	1,000	−408	26.02	1.66
平成13年　3月　1日	1,000	−371	31.41	1.97
平成13年　4月　1日	1,000	−350	34.36	2.14
平成13年　5月　1日	1,000	−374	30.08	1.92
平成13年　6月　1日	1,000	−366	30.88	1.98
平成13年　7月　1日	1,000	−351	32.69	2.09
平成13年　8月　1日	1,000	−323	36.60	2.32
平成13年　9月　1日	1,000	−283	42.47	2.66
平成13年　10月　1日	1,000	−234	49.76	3.06
平成13年　11月　1日	1,000	−250	46.68	2.91
平成13年　12月　1日	1,000	−255	45.33	2.86
平成14年　1月　1日	1,000	−254	44.87	2.86
平成14年　2月　1日	1,000	−226	48.83	3.09
平成14年　3月　1日	1,000	−233	47.17	3.02
平成14年　4月　1日	1,000	−246	44.50	2.89
平成14年　5月　1日	1,000	−239	45.13	2.94
平成14年　6月　1日	1,000	−241	44.29	2.92
平成14年　7月　1日	1,000	−202	49.88	3.25
平成14年　8月　1日	1,000	−166	55.08	3.55
平成14年　9月　1日	1,000	−162	55.08	3.57
平成14年　10月　1日	1,000	−131	59.49	3.83
平成14年　11月　1日	1,000	−128	59.47	3.86
平成14年　12月　1日	1,000	−141	56.70	3.73
平成15年　1月　1日	1,000	−112	60.81	3.98
平成15年　2月　1日	1,000	−85	64.65	4.21
平成15年　3月　1日	1,000	−77	65.30	4.28

契約日	終身型		契約月別運用実績（%）	年複利（%）
	保険金額（万円）	変動保険金額（万円）		
平成15年　4月　1日	1,000	−72	65.50	4.32
平成15年　5月　1日	1,000	−88	62.12	4.17
平成15年　6月　1日	1,000	−102	59.34	4.04
平成15年　7月　1日	1,000	−119	55.99	3.88
平成15年　8月　1日	1,000	−128	54.00	3.80
平成15年　9月　1日	1,000	−135	52.30	3.73
平成15年　10月　1日	1,000	−136	51.62	3.71
平成15年　11月　1日	1,000	−146	49.55	3.61
平成15年　12月　1日	1,000	−141	49.79	3.66
平成16年　1月　1日	1,000	−150	47.76	3.56
平成16年　2月　1日	1,000	−160	45.66	3.45
平成16年　3月　1日	1,000	−170	43.60	3.34
平成16年　4月　1日	1,000	−182	41.30	3.22
平成16年　5月　1日	1,000	−179	41.24	3.24
平成16年　6月　1日	1,000	−167	42.47	3.35
平成16年　7月　1日	1,000	−177	40.55	3.24
平成16年　8月　1日	1,000	−158	42.84	3.43
平成16年　9月　1日	1,000	−156	42.55	3.43
平成16年　10月　1日	1,000	−154	42.32	3.45
平成16年　11月　1日	1,000	−149	42.63	3.50
平成16年　12月　1日	1,000	−158	40.76	3.39
平成17年　1月　1日	1,000	−170	38.41	3.25
平成17年　2月　1日	1,000	−167	38.27	3.27
平成17年　3月　1日	1,000	−179	36.09	3.13

注（1）保険金額は、基本保険金額に変動保険金額を加えた保障額を示したものです。ただし、変動保険金額が負値の場合、保険金額は基本保険金額を表示しています。

（2）契約月別運用実績は、契約時点に特別勘定に投入した金額の平成27年2月末までの運用実績を示したものです。
なお、この運用実績は、ご契約者の支払われた保険料から死亡保障額等に当てられたものを控除した部分の伸び率です。

（3）年複利は契約月別運用実績を年複利換算したものです。

（4）終身型は、平成17年3月31日で販売終了しています。

（5）有期型は平成14年10月31日で販売終了しています。平成24年10月31日で全ての契約が保険期間を満了しました。